

# 森林資源の循環利用 と 森林クレジット

愛知県農林基盤局



矢作川・豊川CNプロジェクト



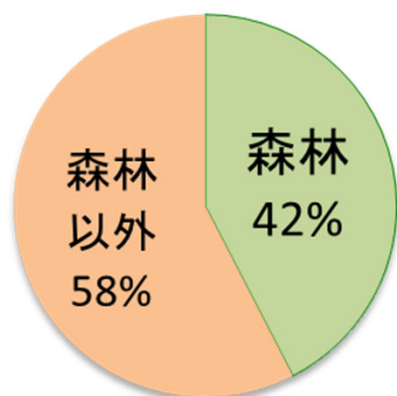
# 1 愛知県の森林の状況



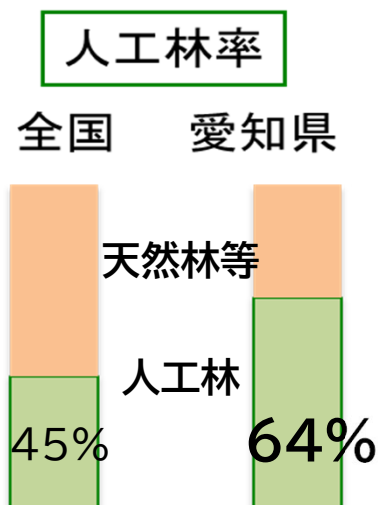
○県土の約4割が森林

総土地面積 517,014ha

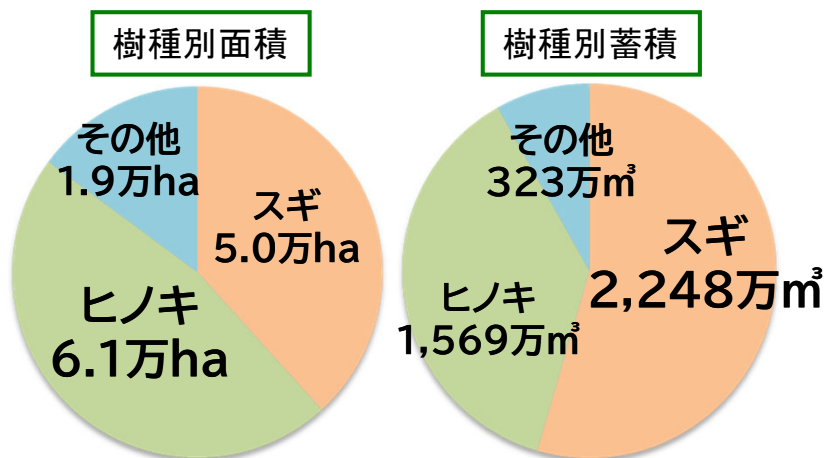
森林面積 217,592ha



○人工林率63.7%(2023)、全国3位



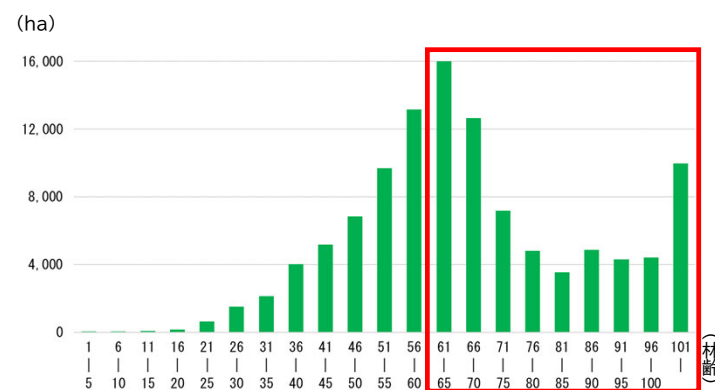
地域森林計画対象森林(人工林)



○60年生を超えるスギ・ヒノキ人工林の割合は約6割

⇒資源の成熟が進んでいる

資料:2023年度 愛知県林業統計書



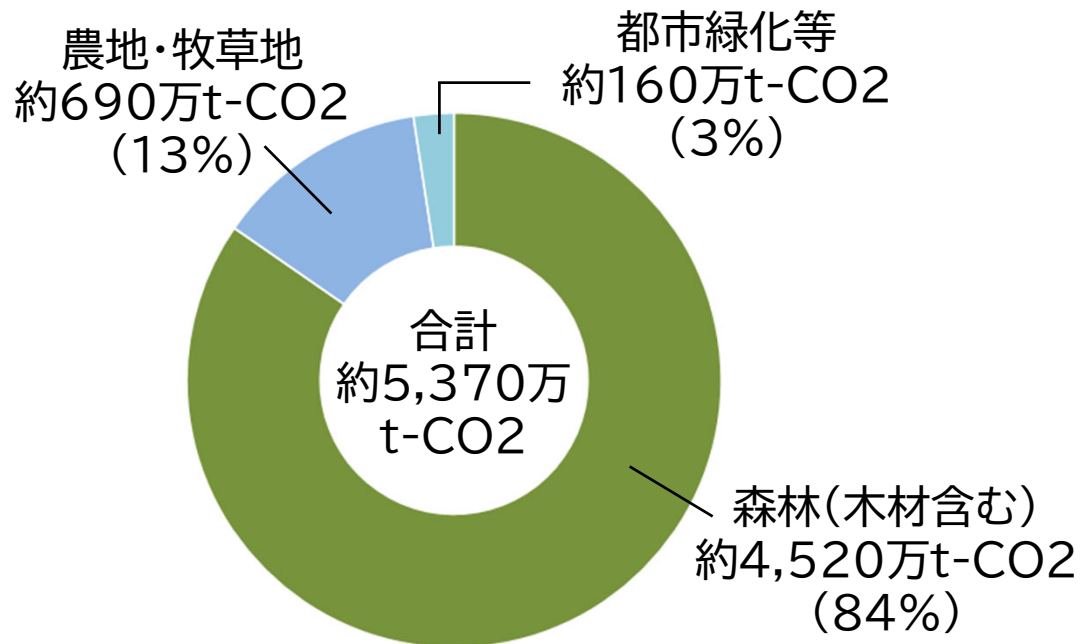
スギ・ヒノキ人工林の林齢構成



出典：日本学術会議答申「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について」及び同関連付属資料(平成13年(2001年11月))

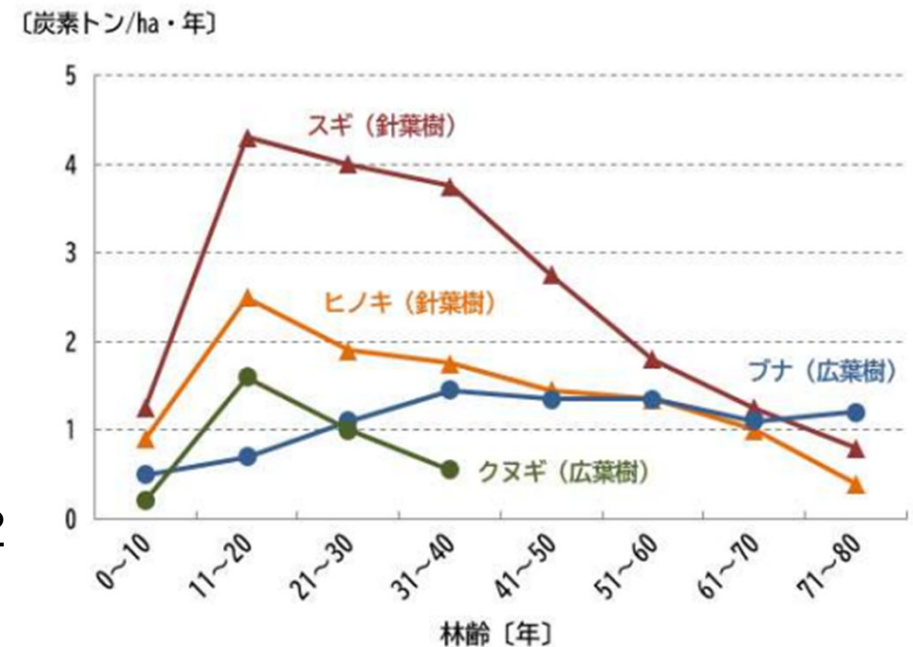


### ○二酸化炭素吸収量の内訳(2023年度)



出典: 国立研究開発法人国立環境研究所「2023年度の温室効果ガス排出・吸収量(詳細)」より林務課作成

### ○樹種別・林齢別炭素吸収量



出典: 森林・林業学習館



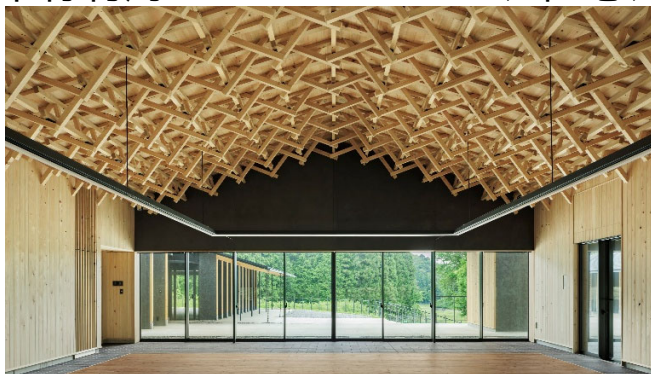
資源を生かし、次世代の森をつくる  
循環型林業を推進

## 分科会の取組② 木材利用の促進



### < 民間建築物等における木材利用 >

木材利用のメリットをPRし、住宅、オフィス、商業施設の木造・木質化を促進



Toyota Technical Center Shimoyama環境学習センター

写真撮影:ナカサアンドパートナーズ



道の駅したら

### < 公共建築物における木材利用 >

民間建築物への波及効果を高めるため、県の公共施設の木造・木質化を推進



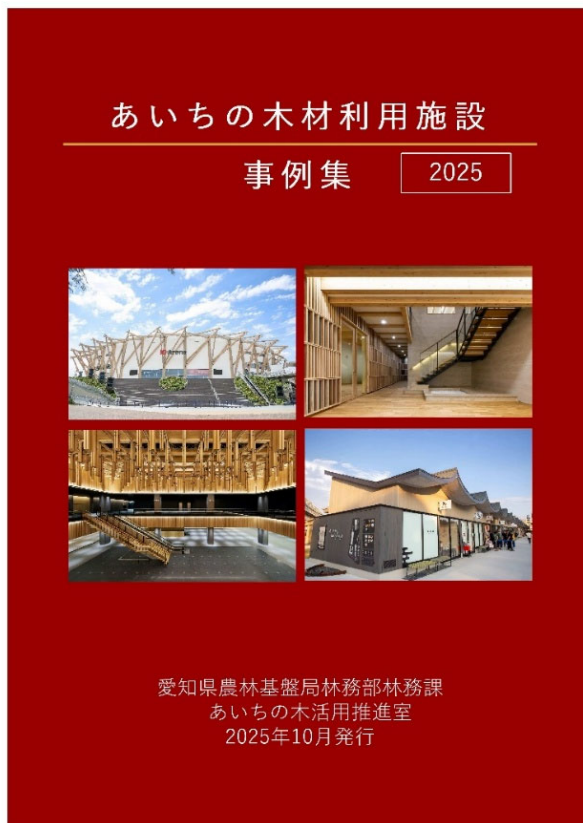
STAION Ai



県立春日井高等学校



- ・木材の魅力や優れた特性を活かした県内の木造  
および内装木質化施設を掲載した事例集を作成
- ・2025年度版は合計131施設を掲載



名古屋  
・尾張  
・海部  
・知多  
・西三河  
・豊田加茂  
・新城設楽  
・東三河

木の香る都市づくり事業  
あいち木づかい表彰受賞施設

もり  
**風の杜ふくろう**  
岡崎市野畑町字藪下23番地2

構造/木造2階建て  
延床面積/528.12㎡ 竣工/2022年11月  
木質化面積/1,079.45㎡  
(うちあいち認証材1,079.45㎡)  
木材使用量/159.26㎡  
(うちあいち認証材 159.26㎡)  
施主/有限会社ぞみ  
設計/小原木材株式会社  
施工/小原木材株式会社  
受賞歴/第7回あいち木づかい表彰優秀賞  
2022年度木の香る都市づくり事業活用施設

板倉造りの高齢者グループホーム  
板倉造りのため、内装は基本的にスギの羽目板の現しになっている。  
入居者の精神的・視覚的な癒し効果だけでなく、イベントを通じ来訪される地域の方にも木材の空間を体感してもらえる施設となっている。



## ○県有林における実証事業

2023  
年度

豊田市内にある県有林約1,100ha  
において森林クレジットの実証事業  
に着手

2024  
年度

森林クレジット484t-CO<sub>2</sub>創出  
うち200t-CO<sub>2</sub>を販売

2025  
年度

・残りの270t-CO<sub>2</sub>を販売  
・約300t-CO<sub>2</sub>を新たに創出予定

・今後も継続して、森林クレジットの創出・販売を行う予定  
・販売収入は県有林の森林管理に活用



牛地県有林(180ha)



怒田沢県有林(960ha)





## ○航空レーザ計測データの活用

従来

現地での人力の調査により、森林の状態（樹高等）を把握し、CO<sub>2</sub>吸収量を算定

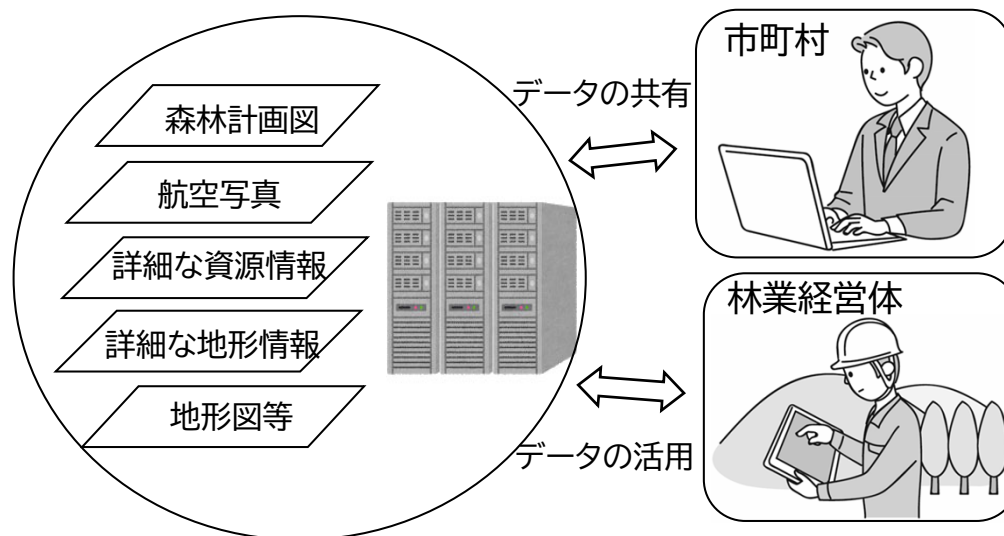
今回

県が実施した航空レーザ計測の成果を活用することで手続きを省力化



## ○森林クラウドシステムの活用

- ・全県分をクラウドで共有
- ・市町村や林業経営体も活用可能





## ○県内へ展開

- ・ 森林クレジットの活用・促進のため、「森林クレジット活用セミナー」や研修を開催
- ・ セミナーでは林野庁森林保全推進官を始めとする方々に、森林クレジットの動向等について講演



森林クレジット活用セミナーの様子  
(2025年3月)

## 2025年度セミナーの内容(予定)

- ・日 時 2026年3月5日(木)
- ・場 所 ウィンクあいち
- ・対象者 森林クレジット活用に関心のある企業の担当者など
- ・内 容 J-クレジット制度の概要や活用事例の紹介等



## Wood City あいち2050

- ① 「伐る・使う→植える→育てる」循環型林業の推進
- ② 公共施設や民間建築物等への県産木材利用の促進
- ③ 森林クレジットの活用促進

森林のCO<sub>2</sub>吸収量の維持・拡大

- ・すべての県民が森林・木材の良さを享受
- ・快適で持続可能な環境を創出
- ・カーボンニュートラルの実現へ

